

氏名：山口真司

実施国：フィリピン

協力活動

活動名称 フィリピンのスラム街における PC 再生施設建設とパイロット事業

実施期間 2012 年 11 月 1 日 ~2013 年 4 月 29 日

(1) 申請した動機

日本で集めるパソコンの数が多くなってきたこともあり、セットアップのための人手が足りなくなってきたことと、ハードウェアやソフトウェアに関するスキルを身につけることが貧困層の若者の将来につながるということから、セットアップ作業を現地で行えないかと考えここに至りました。実際に現地である程度のスキルを持つ若者も存在し、彼らを中心に教育と作業を実施できるスペースがあればリユースを促進できると感じ、現地 NGO と施設を整備していくことを打診し了承を得ることができました。

(2) 活動内容概要

現地 NGO と協働でパソコンの再生作業が可能な施設環境を整え、現地の若者に対して簡単なパソコン再生のサポート技術を教育しました。業務運営を行うためのマニュアルを、日本でパソコン再生を行う福祉作業所を支援する企業に作成してもらい、それを活用しながら現地の若者 4 人に再生手順などを教えて実際に再生作業を行いました。日本からフィリピンへ合計 70 台を送付し、5 つの小学校に 30 台、現地 NGO に 30 台(うち 15 台は 2013 年 6 月に予定)を寄贈しました。残りについては寄贈依頼を受けている学校と交渉をまとめ、近々寄贈したいと考えています。



リユース作業を行う若者(上)

はにかむ少女(下)



(3) 活動の成果・苦勞した点・反省点等

施設を整備する際、協働している現地 NGO が抱えていたトラブルをどうしても解消することができず、全ての準備が完了したのが 2013 年の 4 月と遅くなってしまいました。しかし、準備が完了してからの流れは早く、予定していた学校や NGO の寄贈の話をまとめて届けることができました。

再生作業そのものについては、マニュアルもあるので簡単かと考えていたのですが、普段あまりパソコンに触れる機会のない人々にとってはなかなか難しいところもあり、マニュアルに記載のないエラーなどが出た場合に、自分たちで調べて対処することが難しいと感じました。現状では日本人が滞在しているので対応できるのですが、今後は現地人のみで対応可能なレベルにまで引き上げる必要があります。また、寄贈する学校を増やしていくためにも現地での広報活動を積極的に行いたいと考えています。

(4) 今後のプラン

今後は、扱える台数を増やしていくということが最大の目標になります。パソコンの調達に関しては、日本での広報などの効果もあり順調なので、寄贈対象となる現地の学校や NGO を積極的に開拓していく必要があると考えています。寄贈に関する交渉をまとめた後、日本からのパソコン送付と現地での再生作業を 1 ヶ月以内で完了させて、実際に届けるという一連のフローを完成させたいと思います。

また、現地における ICT 教育促進も見据え、寄贈先の学校などにおけるパソコンの使用方法などを追跡し、問題点などを教育系 NGO と共に解決できるような連携も構築していきたいと考えています。